

# 第33回 Esri User Conference—参加報告—

九州大学大学院工学府建設システム工学専攻 修士1年 村岡 直紀

## 1. はじめに

2013年7月、カルフォルニア州サンディエゴ市で米国Esriユーザ会（第33回Esri User Conference）が開催されました。米国Esriユーザ会は1年に1度開催される米国Esri社主催の、世界中のGISユーザにとって最大のイベントです。今年は世界130ヶ国から約12,000人のユーザが参加し、日本からも80名近いユーザが参加しました。今回「第2回Esri Young Scholars Award」という、幸運にもこの身に余る賞を頂いた私もその一人です。Esri Young Scholars AwardはGISを用いた学生の研究活動を奨励する目的で、2012年度に新設されたもので、その受賞者は米国Esriユーザ会へ招待され、世界中のGISを用いた研究に触れることが出来るという制度です。以上を踏まえ、米国Esriユーザ会の参加報告を以下にまとめます。

## 2. Esri User Conference

2013年の米国Esriユーザ会は7月8日（月）～12日（金）の日程で開催されました。米国Esri社社長ジャック・デンジャモンド氏による挨拶で盛大にスタートしました（写真1）。本年度は「GIS-Transforming Our World」をテーマに、基調講演、ArcGIS10.2の紹介、世界各国における革新的で、多岐に渡るGIS活用事例の紹介やテクニカルワークショップが繰り広げられました。また広大な展示ブース（写真2）では、米国Esri社、スポンサー企業、NPO団体等による展示が行われました。このように米国Esriユーザ会はGISの現状や今後を知る上で貴重な機会となっています。



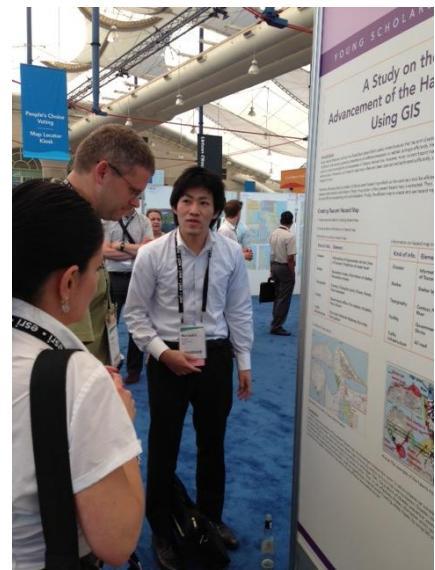
写真1 開会式の様子



写真2 展示ブースの様子

## 3. ポスターセッション

私はEsri Young Scholars Award受賞者として会場内の巨大展示ブースの中に、ポスターを2部展示させて頂きました。1つは研究内容を紹介するもの、そしてもう1つは東京ミッドタウンで開催された第9回GISコミュニケーションフォーラムでのマップギャラリーにて展示させて頂いたマップを英語版に修正したものです。9日には、展示ブース内にて、立食パーティーの形式で参加者全員が展示されているポスターを鑑賞する機会がありました。参加者の投票によって、優秀なデザインおよび研究内容のポスターに関しては後に表彰されます。写真3にあるように、私は自分の作成したポスターの前で参加者からの質問に答えました。初めての海外ということで、英語での問答に若干困惑する場面があったものの、ESRIジャパン㈱の皆様のサポートもあり、私の研究の現状および今後の展望に関して、有意義な議論を行うことが出来ました。世界中のGISの専門家から意見や質問を頂けることは、非常に貴重な機会であると感じました。



#### 4. 授賞式および各交流会

10日（水）はGISテクノロジーの先進的利用を進める各国の団体に贈られるSAG賞(Special Achievement in GIS Award)および私が頂いたEsri Young Scholars Awardの授賞式がありました。今回、SAG賞は福島県南相馬市様が受賞し、ともに授賞式に臨みました。授賞式では、米国esri社社長ジャック・デンジャモンド氏と“GISの父”と呼ばれるトム・リンソン氏の対談から始まり、その内容に聴衆は目を輝かせていました。その後、受賞者は皆ジャック・デンジャモンド氏と記念撮影を行う機会があり、私も参加しました（写真4）。授賞式では、世界各国のEsri Young Scholars Award受賞者、GISユーザと交流できる機会があり、親睦が一層深まりました。（写真5）。

また、授賞式後だけでなく、連日のようにパーティー形式で世界中のユーザと交流する機会が持てました。ESRIジャパン㈱の皆様方に主催して頂いた日本のユーザのための交流会も非常に有意義で、学生の身である私にとっても有難いものでした。

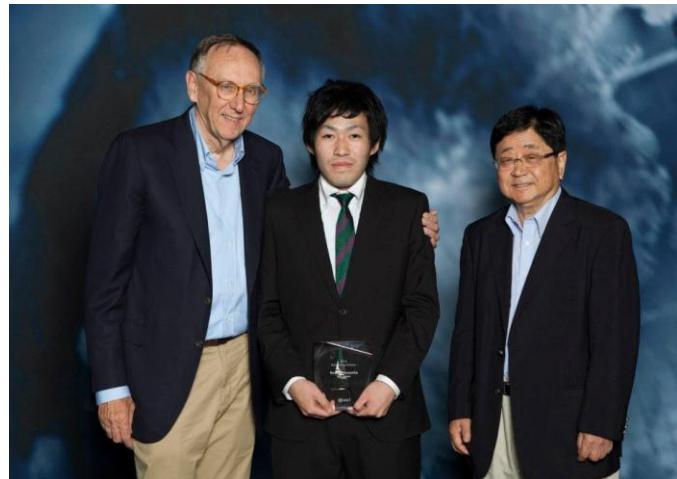


写真4 ジャック・デンジャモンド氏（左）とesriジャパン社社長正木千陽氏（右）と記念撮影



写真5 Esri Young Scholars Award受賞者と

#### 5. 開催地サンディエゴについて

米国Esriユーザ会は毎年カルフォルニア州サンディエゴ市（写真6）で開催されています。7月のサンディエゴ市は日本の真夏のような蒸し暑さもなく、過ごしやすい気候でした。会場であるサンディエゴコンベンションセンター（写真7）は非常に利便性の高い場所に位置しています。徒歩でサンディエゴ市内のレストランに行くことが出来たため、多くのユーザが午前中の各セッションで知り合った方々と一緒に昼食に出かける姿が見受けられました。参加者にとっては、GISの現状や今後を知れるだけでなく、このサンディエゴで5日間過ごすことが出来るというのも大きな魅力の1つだと思います。



写真6 サンディエゴの街並み



写真7 会場付近の様子

#### 6. おわりに

米国Esriユーザ会で得た経験、知識、人脈というのは本当にかけがえのないものです。1年に1回のこのイベントは世界中のGISユーザに有益な情報を相互に発信することで、各々のアイデアが混ざり合い、新たなGISに関する知見が創造される場であることを体感できました。最後に、米国Esriユーザ会の参加にあたり、ESRIジャパン㈱の皆様方、諸先生方、その他関係各位に多大なご支援とご協力を頂きました。末筆ながらここに記して深甚の謝意を表す次第であります。